

授業科目名	人体の構造と機能 I (総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系) (Structure and function of the human body I)	必修：看1年	1単位15時間 コード：NSM101	担当教員名： 太和田 暁之[内科医師] (研究室：図棟9)、 加瀬政彦[医師] (研究室：教育棟 A210)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽 〔授業の到達目標及びテーマ〕				
看護職に必須な人体の構造と生理機能についての知識を修得し、将来臨床で応用できるように以下を目標とする。				
①人体を構成する細胞～器官系の構造と機能、および遺伝と発生プロセスについて理解し説明できる。				
②外皮系の構造、および非特異的防御機能と免疫応答からなる生体防御機構を理解し説明できる。				
③摂食嚥下のしくみを含む消化器系の構造と機能について理解し説明できる。				
④呼吸器系の構造、呼吸運動とその調節機構およびガス交換のしくみについて理解し説明できる。				
〔授業の概要〕				
本授業は病態の理解の基本となる正常人体の構造と機能を講義形式で行なう。まず始めに人体を構成する細胞、組織、器官・器官系の構造と機能の概要、更に遺伝と発生のプロセス、生体防御機構等について学修する。生命活動が営まれるためには消化器系で体外から取り入れた栄養素と呼吸器系で体外から取り入れた酸素が必要となる。本授業では、口腔器よりはじまる消化器の構造と機能を学修するとともに、生命維持に不可欠な外呼吸・内呼吸の行うための構造および呼吸運動の調節機構について講義し理解を深める。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード:細胞・組織・器官、細胞分裂と発生、生体防御機構、消化器系、呼吸器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	総論、ヒトの発生	総論、ヒトの発生	太和田暁之
第2回	4/16	外皮系と生体防御機構 1	外皮系と生体防御機構 1	太和田暁之
第3回	4/23	外皮系と生体防御機構 2	外皮系と生体防御機構 2	加瀬政彦
第4回	4/30	消化器系 1	消化器系 1	太和田暁之
第5回	5/7	消化器系 2	消化器系 2	太和田暁之
第6回	5/14	消化器系 3	消化器系 3	太和田暁之
第7回	5/21	呼吸器系	呼吸器系	加瀬政彦
第8回	5/28	総まとめ	総まとめ	太和田暁之
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 (医学書院) 解剖生理学ワークブック (医学書院)			
参考書・参考資料等	からだが見える(人体の構造と機能) (MEDIC MEDIA)			
学生に対する評価	定期試験80% 課題の提出20%			

授業 科目名	人体の構造と機能Ⅱ (循環器系・腎・泌尿器 系・内分泌系・生殖器系) (Structure and function of the human body Ⅱ)	必修：看1年	1単位15時間 コード：NSM102	担当教員名： 太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 看護職に必須な人体の構造と生理機能についての知識を修得し、将来臨床で応用できるように以下を目標とする。 ①心臓と末梢循環系およびリンパ系の構造と機能について理解し説明できるようになる。 ②腎・泌尿器系の構造と機能、水・電解質バランスについて理解し説明できるようになる ③内分泌系の構造と機能について理解し説明できるようになる。 ④生殖器系の構造および性周期と受精から発生までのしくみを理解し説明できるようになる。				
〔授業の概要〕 人体の構造と機能Ⅰに引き続き、正常人体の構造と機能を講義形式で行なう。酸素および栄養素を含んだ血液を必要な部位に運搬する循環器系、血液から不要な物質を選択して体外へ排除する泌尿器系、それらの機能を制御し身体の内分秘系を司る内分泌系について学修する。さらに次世代を創生する生殖器系の構造と機能についても講義を行い、内分泌系との関連について理解を深める。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード:循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/10	循環器1	循環器系の構造、心臓の構造と機能	
第2回	4/17	循環器2	心電図、心周期と心音	
第3回	4/24	循環器3	末梢循環系、血圧と血液循環の調節、リンパ系	
第4回	5/1	腎臓・泌尿器1	腎・泌尿器系の構造と尿の生成	
第5回	5/8	腎臓・泌尿器2	水・電解質代謝の調節機構	
第6回	5/15	内分泌1	内分泌系による調節、全身の内分泌腺と内分泌細胞	
第7回	5/22	内分泌2、生殖器系	ホルモン分泌の調節・ホルモンによる調節の実際、男性生殖器、女性生殖器、性周期	
第8回	5/29	総まとめ		
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 (医学書院) 解剖生理学ワークブック (医学書院)			
参考書・参考資料等	からだが見える(人体の構造と機能)(MEDIC MEDIA)			
学生に対する評価	定期試験 80% 課題の提出 20%			

授業科目名	人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系） (Structure and function of the human body Ⅲ)	必修：看1年	1単位15時間 コード：NSM103	担当教員名： 太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識，Ⅰ倫理観とプロフェッショナルリズム，Ⅶ生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 看護職に必須な人体の構造と生理機能についての知識を修得し、将来臨床で応用できるように以下を目標とする。 ①血液の構成成分とそれらの機能を理解し説明できるようになる。 ②骨と骨格筋の構造と機能、およびそれらの連結などについて理解し説明できるようになる。 ③神経系の階層構造とそれぞれのシステムの特徴および機能を理解し説明できるようになる				
〔授業の概要〕 人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱにひき続き、正常人体の構造と機能を講義形式で行なう。本授業では眼球、中耳、内耳などの感覚器が外界の変化に対応し、その情報を、中枢に伝える仕組みや、その情報をもとに判断し、行動を指令しそれを制御する神経系の構造と機能、行動の主体となる骨・筋肉系の役割について学修する。神経系においてはヒトの神経系に特有である高次機能についても言及し、骨髄で産生される血球系についても概説する。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：血液系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/2	血液1	血液の組成と機能、赤血球、血小板、血漿、血液凝固・線溶系、血液型	
第2回	10/9	血液2	白血球の種類と機能。免疫、アレルギー	
第3回	10/16	骨・筋肉1	骨の構造と形状、骨の連結、主な骨格と関節	
第4回	10/23	骨・筋肉2	筋肉の構造と筋収縮のしくみ、主な骨格筋	
第5回	10/30	神経系1	神経系の構造と機能、脊髄と脳	
第6回	11/6	神経系2	脊髄神経と脳神経、自律神経、上行・下行伝導路、反射	
第7回	11/13	感覚器系	特殊感覚（視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚）、痛み、内臓感覚	
第8回	11/20	総まとめ		
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院） 解剖生理学ワークブック（医学書院）			
参考書・参考資料等	からだが見える（人体の構造と機能）（MEDIC MEDIA）			
学生に対する評価	定期試験 80% 課題の提出 20%			

授業 科目名	病態学 I (内科系疾病論) (Internal Medicine)	必修：看 2 年	2 単位 3 0 時間	担当教員名： 太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟 9)
			コード：NSM104	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] III 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
[授業の到達目標及びテーマ] 病態学 I では、成人における内科疾患についての基本的な知識を学習することにより、臨床看護学の理解に役立てることを目的とする。本授業では主要な内科疾患について、病態をふまえた疾病の概要と内科臨床の基本について講義を行う。				
[授業の概要] 病態学 I で扱う成人疾患の知識は看護学の基礎として極めて重要であるが、その内容は広範囲で多岐にわたる。この授業ではすでに学修した人体の構造と機能、病理学の知識と関連させながら、講義形式により、臨床で遭遇する頻度の高い疾患を中心に疾患の原因・病態・診断・治療・予後について理解することを目標とする。また治療中の患者看護に必要な臨床薬理的知識についても講義を行う。臨床症例を課題とした学習を併用することにより、単に教科書的な知識の習得にとどまらず、実際の患者に起こる様々な事態についての総合的に理解の必要性を認識させる。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：内科、病態生理、内科診断学、臨床検査、画像診断、内科治療学				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	4/12 I 時限	循環器疾患 1	循環器疾患総論、心不全、高血圧	
第 2 回	4/12 II 限	循環器疾患 2	虚血性心疾患	
第 3 回	4/19 I 時限	循環器疾患 3	不整脈	
第 4 回	4/19 II 限	呼吸器疾患 1	呼吸器疾患総論、呼吸器感染症	
第 5 回	4/26 I 時限	呼吸器疾患 2	気道疾患	
第 6 回	4/26 II 時限	呼吸器疾患 3	間質性肺疾患	
第 7 回	5/10 I 時限	血液疾患 1	血液疾患総論、貧血・出血傾向	
第 8 回	5/10 II 限	血液疾患 2	腫瘍性血液疾患	
第 9 回	5/17 I 時限	消化器疾患 1	消化器疾患総論、逆流性食道炎	
第 10 回	5/17 II 限	消化器疾患 2	消化性潰瘍、炎症性腸疾患	
第 11 回	5/24 I 時限	消化器疾患 3	肝疾患、胆石症、膵炎	
第 12 回	5/24 II 限	腎臓疾患 1	糸球体疾患・尿細管・間質性病変	
第 13 回	5/31 I 時限	腎臓疾患 2	慢性腎臓病と急性腎障害	
第 14 回	5/31 II 限	代謝疾患	糖尿病	
第 15 回	6/7 I 時限	アレルギー疾患	アレルギー疾患、自己免疫疾患	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを熟読。復習には配布プリント、教科書の見直しを推奨。			
テキスト	医学書院 系統看護学講座 成人看護学 (2) 呼吸器 (3) 循環器 (4) 血液・造血器 (5) 消化器 (6) 内分泌代謝 (8) 腎・泌尿器 (11) アレルギー・膠原病・感染症			
参考書・参考資料等	病気がみえるシリーズ(MEDIC MEDIA)			
学生に対する評価	定期試験 80% 課題の提出状況 20%			

授業 科目名	病態学Ⅱ (外科系疾病論) Surgical management of diseases	履修年次 必修看護2年	2単位 30時間 コード: NSM105	担当教員名: 科目責任者 三島 敬【外科医師】 成田 都【整形外科医師】 渡辺 倫子【心臓血管外科医師】、田中 教久【呼吸器外科医師】 小林正芳【脳神経外科医師】、佐塚智和【泌尿器外科医師】 羽生 裕二【婦人科医師】(非常勤講師)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 手術を主たる治療法とする外科系疾患の成因・病態・診断・治療・予後および周手術期管理法を学修する。				
〔授業の概要〕 本科目では、周手術期管理法および手術療法を主たる治療法とする疾患の成因・病態・診断・治療・予後について学修する。周手術期管理法には、手術侵襲と生体反応、術前術後管理、創傷治癒と創傷管理、麻酔法などの内容が含まれる。また、手術療法を主たる治療法とする疾患には、消化器系疾患(胃がん、肝がん等)、循環器系疾患(心筋梗塞等)、呼吸器系疾患(肺がん等)、運動器系疾患(変形性股関節症等)、脳神経疾患(くも膜下出血等)、泌尿器系疾患(前立腺がん等)、女性生殖器疾患(乳がん、子宮がん、子宮筋腫、卵巣腫瘍等)、外傷などの内容が含まれる。本授業は各領域専門医として実務経験のある教員により行われる。				
キーワード: 周手術期管理、創傷治癒、麻酔、滅菌、手術療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11 Ⅲ	外傷・創傷治癒総論	外傷、変性疾患(腰部脊柱管狭窄症等)	成田 都
第2回	4/18 Ⅲ	脊椎疾患外科治療	外科治療の特徴・対象、手術侵襲反応等	成田 都
第3回	4/25 Ⅲ	外科治療外科総論	肺がん等	三島 敬
第4回	5/2 Ⅲ	呼吸器疾患外科治療	術前・術後管理等	田中 教久
第5回	5/9 Ⅲ	周術期管理	変形性膝関節症、変形性股関節症等	三島 敬
第6回	5/16 Ⅲ	関節疾患の外科治療	排尿障害、前立腺肥大症、前立腺癌等	成田 都
第7回	5/23 Ⅲ	腎・泌尿器疾患外科	子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫	佐塚 智和
第8回	5/30 Ⅲ	女性生殖器疾患外科	滅菌法・消毒法、清潔操作、手術器具等	羽生 裕二
第9回	6/6 Ⅲ	外科的基本手技	食道がん、胃がん、大腸がん	三島 敬
第10回	6/6 Ⅳ	消化管疾患外科治療	くも膜下出血、脳内出血、脳腫瘍等	三島 敬
第11回	6/13 Ⅲ	脳・神経疾患外科	肝・胆道がん	小林 正芳
第12回	6/13 Ⅳ	肝胆膵疾患外科治療1	虚血性心疾患等	三島 敬
第13回	6/13 Ⅴ	心疾患	膵臓がん	渡邊 倫子
第14回	6/20 Ⅲ	肝胆膵疾患外科治療2	全身麻酔、局所麻酔等	三島 敬
第15回	6/20 Ⅳ	麻酔法	外傷、変性疾患(腰部脊柱管狭窄症等)	三島 敬
履修条件	特になし。			
予習・復習	復習にはレジュメ・ノートの見直しを推奨。			
テキスト	特に指定しない。			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験(70%)、日ごろの学習態度(30%)により評価する。			

授業 科目名	病態学Ⅲ (高齢者・精神疾患論) (Gerontology and Psychiatry)	必修：看2年	1単位15時間	担当教員名： 太和田暁之〔内科医師〕 (研究室：図棟9)、 高橋由美子〔精神神経科医師〕 (非常勤講師室)、 山本達也〔神経内科医師〕 (研究室：仁戸名9)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識，Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズム，Ⅶ生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>複雑な現代社会において、精神疾患と人口の高齢化に伴う老年病診療の重要性はますます高まっている。そこで本講義では講義形式により、まず前半で精神医学の基本概念や、代表的な精神疾患の特徴やその治療法を学び、後半で、老化に伴った人体の生理機能の変化、老化を基盤とした疾病の病態・診断・治療について学修する。以下の項目を学生の到達目標とする。</p> <p>① 精神医学がどういうものか、何が対象で、どんな診察・検査を行うか説明できる</p> <p>② 主な精神疾患について、その症状と治療法を説明できる</p> <p>③ 老化とは何か、加齢に伴いどのような生理的变化が生じるか、説明できる</p> <p>④ 高齢者に起こりやすい疾患を挙げ、その特徴や予後について説明できる</p>				
〔授業の概要〕				
<p>人口の高齢化に伴い要介護者は増加しており、老年看護学の重要性はますます高まっている。身体的問題に加えて、精神状態の把握や対策が必要なことが高齢者の大きな特徴である。そこで本講義では講義形式により、まず前半で精神医学の基本概念や、代表的な精神疾患の特徴やその治療法を学び、後半で、老化に伴った人体の生理機能の変化、老化を基盤とした疾病の病態・診断・治療について学習する。精神神経科医師、内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。</p> <p>キーワード：精神疾患、統合失調症、老化、加齢、老年病</p>				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	精神医学総論、器質性精神病	精神医学総論	高橋由美子
第2回	4/16	気分障害、統合失調症	各疾患の症状と治療法	高橋由美子
第3回	4/23	神経症、人格・行動の異常	各疾患の症状と治療法	高橋由美子
第4回	4/30	発達・知的障害	各疾患の症状と治療法	高橋由美子
第5回	5/7	老年病学総論	老化とはなにか、加齢による生理変化、老年症候群	太和田暁之
第6回	5/14	脳血管障害	脳卒中の診断・病態生理・治療	山本達也
第7回	5/21	高齢者の低栄養	フレイル、サルコペニア、嚥下障害	太和田暁之
第8回	5/28	総まとめ		太和田暁之
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 (7) 脳・神経 (医学書院)			
参考書・参考資料等	老年学 標準理学療法学・作業療法学シリーズ (医学書院) 病気がみえるシリーズ (MEDIC MEDIA)			
学生に対する評価	定期試験80% 課題の提出状況20%			

授業 科目名	臨床検査論 (Laboratory Medicine)	必修：看2年	1単位15時間	担当教員名： 太和田 暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床検査は、疾病の診断や重症度・予後判定の際の客観的情報として重要であり、質の高いケアを行うためには看護師としてもその基本を学修する必要がある。実際の検査値についてその解釈、注意点や限界などについて理解し、説明できるようになることを到達目標とする。				
〔授業の概要〕 検体検査・画像検査・機能検査などの臨床検査は、疾病の診断や重症度・予後判定の際の客観的情報として重要であり、質の高いケアを行うためには看護師としてもその基本を学修する必要がある。本授業では、基礎的臨床検査への理解を深めることを目的とし、循環器系検査、呼吸器系検査、生化学検査、画像検査、環境測定法など、臨床で多用される臨床検査について、その結果の解釈、注意点や限界などについて講義を中心として一部実習も交えて学修する。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード：血液検査、生化学検査、生体検査、病理学的検査、画像検査				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/12	臨床検査学総論	臨床検査の流れ、検体検査	
第2回	4/19	血液検査	血液検査、出血凝固検査、骨髄検査等	
第3回	4/26	生化学検査1	生化学検査全般	
第4回	5/10	生化学検査2	生化学検査全般	
第5回	5/17	免疫・血清学的検査	炎症マーカー、液性免疫、自己抗体、アレルギー等	
第6回	5/24	微生物学・病理学的検査	感染症の診断と検査、細胞診検査、病理組織検査	
第7回	5/31	生体検査	心電図、呼吸機能検査、超音波検査、他画像検査	
第8回	6/7	総まとめ		
履修条件	特になし			
予習・復習	復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨。			
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院)			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	定期試験80% 課題の提出状況20%			

授業 科目名	看護学入門 Introduction to Nursing	必修： 看1年	1単位 15時間 コード：NSB101	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕(教育棟B307) 浅井美千代〔看護師〕、石井 邦子〔助産師〕、 市原 真穂〔看護師〕、春日 広美〔看護師〕、 木内 千晶〔看護師〕、小宮 浩美〔看護師〕、 佐藤 紀子〔保健師〕、西村 宣子〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅲ. 実践に必要な知識、Ⅶ. 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1) 現在のわが国の保健医療の現状と課題、看護の役割とその歴史的変遷について理解し、看護職に期待される役割について考えることができる。2) 看護観の基盤となる人間、健康、生活、環境について理解を深めることができる。3) 看護が展開される多様な場の特性と、看護活動・役割機能について説明できる。4) 看護学科の教育目標とカリキュラム構成を理解し、他学生や看護専門領域の教員らとのディスカッションを通して自分自身の大学生活、および将来展望を描くことができる。				
〔授業の概要〕 現代社会における保健医療の現状・課題と看護職に期待される役割を理解し、看護観の基盤となる人間、健康、生活に関する概念とその概念に関連する知識を学修する。また、看護の対象を生活者として幅広く理解するために、地域で生活する高齢者や高齢者を支援する立場の方から講義を受ける。さらに闘病記を通して実際の多様な闘病体験に触れ、看護の対象理解を深める。また看護活動の実際について、多様な看護実践現場とその場に応じた看護実践活動についての講義を受けたり、看護専門領域を訪問したりすることにより、理解を深める。これらを通して、自らの看護職としてのビジョンを描き、今後の学修の動機づけにつなげる。前半は主にオムニバス形式の講義形式とし、適宜グループワークを取り入れる。後半の看護専門領域訪問についてはグループワークを主とする。				
キーワード：看護の役割 人間 健康 生活 看護実践活動				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/11	ガイダンス 看護の役割とその 変遷	看護学科教育目標とカリキュラム構成について 看護の概念・役割とその変遷について講義し、現代の看護について考える。	河部 房子
第2回	4/18	健康とは 人間の生活と健康	健康の概念や、健康の意義、生活環境と健康との つながりについて講義する。	佐藤 紀子
第3回	4/25	人間の生活の多様 性と生活支援	看護の対象者の生活の場の多様性と、その生活を 支援する多様な立場について講義する。 地域で生活する高齢者と、その人々を支える立 場にある専門職の方から、日々の生活と具体的 な支援について話を聞く。	春日 広美 (特別講義講師)
第4・5 回	5/2・9	看護の対象理解	闘病記を読み、患者の疾病の受容過程や生活の 変化について、当事者の立場からの理解を深め る。自分の意見をまとめた上で小グループによ るディスカッションおよび発表を行う。	河部 房子 春日 広美
第6回	5/16	多様な場の特性と 看護活動	看護が展開される場の特性と、その場に応じた 看護実践活動について講義する。さらに、専門 看護師・認定看護師の立場で活躍している専門 職の方から、看護活動の実際について話を聞く。	浅井美千代 (特別講義講師)
第7回	5/23	看護の領域訪問	本学の看護専門領域を訪問し、魅力を発見する。	浅井美千代、石井邦子、 市原真穂、春日広美、 木内千晶、河部房子、 小宮浩美、佐藤紀子、 西村宣子
第8回	5/30 (45分)	発表会	今までの学びと領域訪問から、これからの学び で大事にしたいことを発表する	
履修条件		特になし		
予習・復習		各担当教員の指示による		
テキスト		特定のものはない		
参考書・参考資料等		その都度配布する		
学生に対する評価		講義毎の小レポート、学習態度により総合的に評価する。		

授業 科目名	看護学原論 Principles and Practice of Nursing	履修年次： 必修：看1年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子 [看護師] (研究室：教育棟 B307) 今井宏美 [看護師]、渡辺健太郎 [看護 師]、小布施未桂 [看護師]、 仁井田友紀 [看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅲ. 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1) 看護の概念や役割、看護の目的と看護の対象である人間についての理解を深めることができる。2) 看護するための対象把握の思考過程と立場の変換能力について、理解できる。3) 看護過程を展開する思考過程について理解できる。4) 具体的な事例を用いて、実際に看護過程を展開する思考を進め、対象の事実から看護の方向性と必要な看護援助を見いだす思考過程について理解できる。				
〔授業の概要〕 看護観を育てる基盤となる概念・知識・考え方を学修する。まず、F. ナイチンゲール「看護覚え書」の読み取りを通して、看護の本質と看護の目的を理解する。看護の基本的な構造と看護者の対象把握が看護実践に深く影響するというつながりを理解し、看護の対象である人間の見つめ方やそこから導かれる看護の方向性について、具体的な事例や看護場面等を用いて、看護を展開する思考過程についての理解を深める。 本授業では、概念と実際の事例とのつながりを理解するために、講義とグループワークとを併用して授業を進める。				
〔授業計画〕 キーワード：看護の本質、看護の目的論・対象論・方法論、看護過程の展開				
回数	日付	テーマ	内容	担当者
第1・2回	4/11	ガイダンス 看護とは	看護の歴史の変遷をふまえつつ、看護の概念や役割、看護の基幹概念について講義する。	河部 房子
第3・4回	4/18	看護の目的論	看護の概念や役割、看護の目的、看護過程の基本構造について講義する。映像教材を元に、学んだ概念を具体的な現象とつなげて理解する。	河部 房子
第5・6回	4/25	看護の目的論	F. ナイチンゲール「看護覚え書」の読み取りを通して、看護の本質と具体的な健康現象とのつながりを理解する。	河部 房子ほか
第7・8回	5/2	看護の対象論 人間とは 健康とは	人間とはどのような存在か、人間のもてる力、自立した生活を支える力についての討議を通して、健康の概念と看護のはたらきについて理解する。	河部 房子
第9・10回	5/9	看護の対象論・方法論 看護実践方法論 立場の変換能力	看護するための対象把握の思考過程と立場の変換能力について講義する。さらに、看護の目的論・対象論と方法論との関連について講義する。事例を用いて、看護過程を展開するための思考過程について理解する。	河部 房子ほか
第11・12回	5/16	看護の方法論 看護過程展開の技術	看護過程を展開する思考過程を活用して、事例の看護アセスメントを行い、患者の事実を元にアセスメントするとはどうすることか、理解する。	河部 房子
第13・14回	5/23	看護の方法論 看護過程展開の技術	事例のアセスメント結果から、看護の方向性を導き、具体的な看護展開を考える。この学習を通して、看護アセスメントから必要な看護援助を見いだす思考過程について理解する。	河部 房子
第15回	5/30 I限	まとめ	これまでの学習内容を振り返ってまとめ、看護過程を展開する思考過程について理解を深める。	河部 房子
履修条件	特になし			
予習・復習	授業内で指示する			
テキスト	薄井坦子：改訂版 看護学原論講義，現代社，1995。 F. ナイチンゲール：看護覚え書 第7版，現代社，2011。			
参考書・参考資料	薄井坦子：ナースが視る人体，講談社，1987。 薄井坦子：ナースが視る病氣，講談社，1994。			
学生に対する評価	授業で提示する課題・レポート（80%）、学習態度（20%）により総合的に評価する。			

授業 科目名	看護倫理 (Nursing ethics)	必修：看2年 編入3年	1単位 15時間 コード：NSB103	担当教員名： 西村宣子【看護師】 (図書館棟8号室) 富樫恵美子【看護師】
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] I 倫理観とプロフェッショナリズム II 実践に必要な知識 II コミュニケーション能力				
[授業の到達目標及びテーマ] 1. 生命倫理の原則、看護職の倫理規定について説明できる 2. 看護の対象となる人間の権利、人権擁護など看護職に求められる倫理的責任と法的責任について説明できる 3. 看護実践上の倫理的問題に対して、原則に基づくアプローチ、系統的なアプローチを理解できる 4. 看護実践上で直面する倫理的問題、ジレンマについて、解決のために「なにをすべきか」自分の意見を述べる ことができる				
[授業の概要] 看護倫理は、看護における「核」であり、人間の権利を尊重し、人間の生命・尊厳・生活に関わるものである。 本科目では、看護専門職者として必要である行動の根拠となる法的責務、倫理原則や職業倫理規定について 学ぶ。そして、看護実践上において生じやすい倫理的問題を含んだ授業テーマごとの事例について、原則に基づ くアプローチ、系統的なアプローチ方法を用いて繰り返し検討し、さらにグループディスカッションを通して看 護職として求められる倫理的感受性を養い、適切な判断・行動ができる基盤をつくる。 臨床看護師としての実務経験に基づき2名の担当教員が講義を行う。				
[授業計画] キーワード：倫生命倫理・看護倫理、倫理原則、倫理的感受性、倫理的意思決定				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/7・Ⅲ	医療倫理と看護倫理の基本的 な考え方	倫理とは 生命倫理の歴史的変遷 患者の権利・生命倫理4原則・看護者 の倫理綱領	西村 宣子
第2回	10/21・Ⅲ	看護職の責務と倫理	専門職の倫理と看護者の責務 意思決定支援 看護実践上の倫理的概念	西村 宣子
第3回	10/28・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ (1) ケアの倫理	ケアの倫理 臨床での倫理的課題 グループディスカッションによる事例 検討①	富樫恵美子
第4回	11/11・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ (2) 先端医療と制度	先端医療と制度をめぐる倫理 グループディスカッションによる事例 検討②	西村 宣子
第5回	11/18・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ (3) 認知症ケア	認知症ケアと倫理 グループディスカッションによる事例 検討③ 倫理的問題のアプローチ方法	西村 宣子
第6回	11/25Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ (4) 小児看護	小児看護と倫理 グループディスカッションによる事例 検討④	西村 宣子
第7回	12/2・Ⅲ	看護実践における倫理的問題 へのアプローチ (5) 人生の最終段階の看護	人生の最終段階の看護と倫理 アドバンスケアプランニング グループディスカッションによる事例 検討⑤	富樫恵美子
第8回 0.5	12/9・Ⅲ	まとめ		西村 宣子
履修条件		特になし		
予習・復習		授業の中で適宜提示する		
テキスト		小西恵美子：看護学テキスト NiCE 看護倫理 改訂第3版 南江堂		
参考書・参考資料等		系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 他適宜関連図書を紹介する		
学生に対する評価		学習課題レポート (50%)、最終レポート (30%)、学習態度 (20%) とし、総合的に評 価する		

授業 科目名	看護技術論Ⅰ(生活援助技術) Principles of Nursing Skill Ⅰ	履修年次 必修：看1年	単位数： 2単位 60時間 コード：NSB104	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟B307) 今井宏美〔看護師〕、渡辺健太郎〔看護師〕、 小布施未桂〔看護師〕、仁井田友紀〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
①看護技術の本質と修得過程を理解し、看護技術の学習の仕方を身につける。 ②学習する生活援助技術が、看護の対象となる人々の快適で健康的な生活を支えることを理解する。 ③各援助技術の原則と方法について理解し、根拠を押さえながら修得する。				
〔授業の概要〕				
演習を主体とした授業形式により、看護実践の基盤となる日常生活援助について、基本的知識と科学的根拠に基づいた原理・原則を教授する。生活援助技術の選択、援助方法、評価について実践的に学ぶ。				
キーワード：病床環境、食事介助、体位変換、移動・移乗、排泄ケア、清潔ケア、ボディメカニクス				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当者
第1・2回	10/3	ガイダンス 看護技術とは 環境調整技術 1	看護実践における看護技術 病床環境 ボディメカニクス	河部房子 今井宏美 斎藤 真 (特別講義講師)
第3・4回	10/9・10	環境調整技術 2・3	ベッドメイキング	今井宏美他
第5・6回	10/16・17	環境調整技術 4・5	感染予防の基本技術	今井宏美他
第7・8回	10/23・24	活動と休息の援助技術 1・2	体位変換・床上移動、 移動・移乗技術	渡辺健太郎他
第9・10回	10/30・31	活動と休息の援助技術 3・4	移動・移乗技術	渡辺健太郎他
第11・12回	11/6	活動と休息の援助技術 5 排泄の援助技術 1	移動・移乗技術 排泄援助の基礎知識	渡辺健太郎他 河部房子他
第13・14回	11/7	食の援助技術 1・2	食の援助の基礎知識 口腔ケア	今井宏美他
第15・16回	11/13・14	食の援助技術 3・4	食事介助	今井宏美他
第17・18回	11/20・21	排泄の援助技術 2・3	排泄の援助技術	河部房子他
第19・20回	11/27	清潔の援助技術 1・2	清潔援助の基礎知識	河部房子他
第21・22回	12/4	清潔の援助技術 3・4	全身清拭	全員 (授業補助者)
第23・24回	12/11	清潔の援助技術 5・6	足浴・洗髪	全員 (授業補助者)
第25・26回	12/18	清潔の援助技術 7・8	寝衣交換・陰部洗浄	全員 (授業補助者)
第27・28回	1/8	総合演習	模擬場面における看護展開	全員 (授業補助者)
第29・30回	1/22			
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：各単元担当教員より事前課題の指示がある 復習：各援助技術を身につけるため、授業で学習した内容を自己学習する			
テキスト	①茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ，基礎看護学【2】，医学書院。 ②任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，基礎看護学【3】，医学書院。 ③薄井坦子他：Module方式による看護方法実習書(第3版)，現代社，2006。			
参考書・参考資料等	随時紹介する			
学生に対する評価	毎回の課題(60%)、総合演習(30%)、学習態度(10%)により総合的に評価			

授業 科目名	看護技術論Ⅱ (フィジカルアセスメント) Principles of Nursing Skills II	履修年次: 必修: 看1年	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 科目責任者 今井宏美 [看護師] (研究室 教育棟B304) 河部房子 [看護師]、渡辺健太郎 [看護師]、小布施未桂 [看護師]、仁井田友紀 [看護師]
		実務経験のある教員による授業科目	コード: NSB105	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、問診・観察技術・フィジカルイグザミネーション（視診・聴診・触診・打診）を実施するにあたっての基本的な知識と技能を理解する。</li> <li>・バイタルサインを正確に測定できるようになる。</li> <li>・フィジカルアセスメントより得られた情報を基に、対象の健康状態を査定し、看護援助につなげていくことができる。</li> </ul>				
〔授業の概要〕 この授業では、各担当者の実務経験に基づいた目と耳と手と器具を用いたフィジカルイグザミネーションを教授し、習得したフィジカルアセスメントの技術を看護援助につなげる思考を学習する。				
キーワード: バイタルサイン、フィジカルアセスメント、全身状態の査定				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/27 Ⅲ限	ガイダンス フィジカルアセスメント総論	フィジカルアセスメントと フィジカルイグザミネーション	今井宏美
第2回	11/28・ 29	バイタルサイン	体温、脈拍、呼吸、血圧のみかた (5感で把握する)	今井宏美他
第3回		バイタルサイン	運動によるバイタルサインの変化	今井宏美他
第4・5回	12/5・6	バイタルサイン	水銀レス血圧計での血圧測定/触診法	今井宏美他
第6回	12/12・ 13	バイタルサイン	血圧測定技術チェック	今井宏美他
第7回		バイタルサイン	意識レベル/神経系のフィジカルイグザミネーション/痛み	渡辺健太郎他
第8・9回	12/19・ 20	系統別アセスメント (循環器系)	循環器系のフィジカルイグザミネーション /胸痛/正常心音の聴診	河部房子他
第10・ 11回	1/9・10	系統別アセスメント (呼吸器系)	呼吸器系のフィジカルイグザミネーション /呼吸困難/正常呼吸音の聴診	今井宏美他
第12回	1/23・ 24	系統別アセスメント (消化器系)	消化器系のフィジカルイグザミネーション /腹痛	今井宏美他
第13回		系統別アセスメント (循環器系)	尿量から循環動態を査定/腹痛	今井宏美他
第14回	1/30・ 31	フォーカスアセスメント	臨床推論	今井宏美他
第15回		バイタルサイン (アセスメント)	測定結果等を査定し、看護援助へつなげる	今井宏美他
履修条件		特になし		
予習・復習		予習: 各単元担当教員より、事前課題の指示がある。 復習: 各技術を身につけるため、授業時間外の自己学習をすること。LB活用		
テキスト		茂野香おる他. 系統看護学講座 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ. 医学書院.		
参考書・参考資料等		①山内豊明(2023). 緊急度を見抜く! バイタルサインからの臨床推論 第1版. 医学書院. ②山内豊明(2011). フィジカルアセスメントガイドブック 第2版. 医学書院. ③日野原重明編(2006). フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版. 医学書院.		
学生に対する評価		定期試験 (50%)、課題 (20%)、技術チェック (20%)、学習態度 (10%)		

授業 科目名	看護技術論Ⅲ (検査治療技術) Principles of Nursing Skills III	必修：看2年  実務経験のある教員による授業科目	2単位 60 時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子 [看護師] (研究室：教育棟 B307) 今井宏美 [看護師]、渡辺健太郎 [看護師]、 小布施未桂 [看護師]、仁井田友紀 [看護師]
			コード： NSB106	
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ①診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人への看護技術とは何かを理解し、説明できる。 ②診断・治療過程における看護師の役割や責務について理解する。 ③診断・治療過程に用いられる看護基本技術（無菌操作、与薬、採血、導尿、浣腸、経腸栄養法、吸引等）の原理原則を理解する。				
〔授業の概要〕 健康障害をもつ対象者の状態・諸条件を把握した上で、その診断・治療過程を理解し、療養に必要な援助を実施するための基本的知識と看護基本技術の原理・原則を教授する。また、既習事項であるアセスメントから看護ケアに至る思考過程をふまえつつ、模擬状況における看護を実践し、自己の学習課題を明確にする。				
キーワード：無菌操作、与薬、静脈血採血、導尿、浣腸、経腸栄養法、吸引、看護アセスメント				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当者
第1回	4/9・10	ガイダンス 検査治療技術とは	看護における検査治療技術	河部房子
第2～6回	4/9・10, 16・ 17	感染予防の援助1～5	滅菌手袋の装着 滅菌物の取り扱い スタンダードプリコーション	今井宏美他
第7～11回	4/23・ 24, 4/30・5/1	薬物療法の援助1～5	薬物療法の基礎知識・注射・ 点滴静脈内注射	渡辺健太郎他
第12～14回	4/30・ 5/1, 5/7・8	検査における援助 1～3	検査における援助の基礎知識・ 静脈血採血	渡辺健太郎他
第15～18回	5/7・8, 14・ 15	呼吸を整える援助 1～4	呼吸を整える援助の基礎知識 酸素療法・ネブライザー・吸引	今井宏美他
第19～20回	5/21・22	診療に伴う食の援助1・ 2	診療に伴う食の援助の基礎知識・ 経腸栄養	渡辺健太郎他
第21～24回	5/21・22, 28・29	診療に伴う排泄の援助 1～4	診療に伴う排泄の援助の 基礎知識・導尿・浣腸	河部房子他 今井宏美他
第25～27回	6/4・5	看護アセスメント 総合演習課題		全員 (授業補助者)
第28～30回	6/11・12	総合演習 まとめ		(特別講義講師)
履修条件	看護技術論Ⅰ、看護技術論Ⅱを履修していることが望ましい。			
予習・復習	予習：各単元担当教員より、事前課題の指示がある。 復習：各援助技術を身につけるため、授業で学習した内容を自己学習すること。			
テキスト	任和子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，基礎看護学【3】，医学書院。 薄井坦子他：Module 方式による看護方法実習書（第3版），現代社，2006。			
参考書・参考資料等	随時指定する			
学生に対する評価	各単元の課題(70%)、総合演習(20%)、学習態度(10%)により総合評価する。			

授業 科目名	看護技術論Ⅳ (看護過程展開技 術) Principles of Nursing Skills Ⅳ	履修年次 必修：看 2年	単位数： 1 単位 30 時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子 [看護師] (研究室：教育棟 B307)
		実務経験のある教員による授業科目	コード：NSB107	今井宏美 [看護師]、渡辺健太郎 [看護師]、 小布施未桂 [看護師]、仁井田友紀 [看護師]
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、IV健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>① 看護実践における看護過程の意義について理解する。</p> <p>② 看護過程の構成要素（アセスメント、看護問題の明確化、計画の立案、実施、評価）と、その思考過程について理解する。</p> <p>③ 事例を用いて看護過程を展開する思考過程をたどり、アセスメントから計画立案・実施した看護の評価に至る思考のすすめ方を理解する。</p> <p>④ 自己の看護実践体験を評価し、自己の思考の特徴や今後の学習課題を明確にする。</p>				
〔授業の概要〕				
この授業はグループワークによる演習を主体とし、事例を用いて具体的に看護過程の展開を学ぶ。この事例展開においては、対象の事実から健康状態を判断し、その健康状態をより良い状態へと導く条件を特定し、対象者の個別な反応を重ねて看護の方針を定め具体的な計画立案へと進むプロセスを学ぶ。計画を立案した後、実際の看護者の関わりの場面を、看護の方向性に照らして評価する評価方法について学ぶ。最終的に、基礎看護学実習における看護実践体験を、授業で学んだ思考過程を活用して評価し、自己の学習課題を明確にする。				
〔授業計画〕 キーワード：看護過程 アセスメント 看護計画立案 看護の評価				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当者
第 1 回	11/19	ガイダンス 看護過程と構成要素	授業概要、看護過程とはなにか 事例の説明、ワークの進め方	河部房子
第 2・3 回	12/3	事例を用いた看護過程の展開 1	グループワークによる演習・まとめ アセスメント 1	河部房子
第 4・5 回	12/10	事例を用いた看護過程の展開 2	グループワークによる演習・まとめ アセスメント 2	河部房子他
第 6・7 回	12/17	事例を用いた看護過程の展開 3	グループワークによる演習・まとめ アセスメント 3	河部房子他
第 8・9 回	1/7	事例を用いた看護過程の展開 4	グループワークによる演習 看護計画の立案	河部房子他
第 10・11 回	1/14	事例を用いた看護過程の展開 5	グループワークによる演習・まとめ 看護計画の発表 看護の評価	河部房子他
第 12・13 回	1/21	事例を用いた看護過程の展開 6	グループワークによる演習・まとめ 新しい事例に対して、学んだ思考過程に沿ってアセスメントをする。	河部房子他
第 14・15 回	1/28	事例を用いた看護過程の展開 7 まとめ	グループワークによる演習・まとめ	河部房子他
履修条件	基礎看護学実習を履修していることが望ましい			
予習・復習	予習：事例のアセスメントに必要な専門知識の学習 復習：各回の学習内容、グループワークの内容を整理して理解し、考え方を身につける			
テキスト	薄井坦子：改訂版 看護学原論講義，現代社，1995。 薄井坦子他：Module 方式による看護方法実習書（第3版），現代社，2006。			
参考書・参考資料等	適宜、提示する。			
学生に対する評価	グループワークでの課題（40％）、個人課題レポート（40％）、学習態度（20％）により総合的に評価する。			

授業 科目名	看護技術論Ⅴ (統合技術演習) Principles of Nursing Skills Ⅴ	履修年次 必修：看2年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子〔看護師〕 (研究室：教育棟B307) 今井宏美〔看護師〕、渡辺健太郎〔看護師〕、 小布施未桂〔看護師〕、仁井田友紀〔看護師〕
			コード：NSB108	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① これまで学んだ技術を統合して、対象者への援助を実施していく過程を理解する。 ② 模擬状況の看護場面における看護実践を行い、その振り返りを通して自己の看護技術の修得状況を自己評価し、学習課題を定める。				
〔授業の概要〕				
この授業では、演習を主体とした授業形式により、看護技術論Ⅰ～Ⅳで学んできた看護技術の原理・原則や看護過程展開の技術を統合して、対象者に実践する方法論を学修する。看護技術論Ⅰ～Ⅳで学んだ看護基本技術を複数活用し、模擬場面における看護実践を行うことを通して、看護基本技術の定着をはかる。また、模擬場面での看護実践を通して、各自の技術の修得段階を自己評価し、さらに技術修得レベルを高めるための課題を明確にする。				
キーワード 無菌操作、ヒューマンエラー、導尿、与薬、吸引				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	担当者
第1・2回	10/1	ガイダンス・特別講義 感染予防の援助1	授業概要・看護における検査治療技術 ヒューマンエラー 感染経路別予防策 滅菌手袋の装着 滅菌物の取り扱い	河部房子 斎藤 真 (特別講義講師) 今井宏美
第3・4回	10/8	感染予防の援助2・3	無菌操作 (技術チェック)	今井宏美他
第5・6回	10/22	呼吸を整える援助1・2	気管内吸引	今井宏美他
第7・8回	10/29	呼吸を整える援助3・4	気管内吸引 (技術チェック)	今井宏美他 (授業協力者)
第9・10回	11/5	検査における援助1・2	静脈血採血	河部房子他 (授業協力者)
第11・12回	11/12	検査における援助3・4	静脈血採血 (技術チェック)	河部房子他 (授業協力者)
第13・14回	11/19	薬物治療に伴う援助1	筋肉内注射・皮下注射 (技術チェック)	渡辺健太郎他
第15回	11/26	薬物治療に伴う援助2・3	筋肉内注射・皮下注射 (技術チェック)	渡辺健太郎他 (授業協力者)
履修条件	看護技術論Ⅰ～Ⅲを履修していることが望ましい			
予習・復習	予習：各援助技術の前提知識の復習 (看護技術論Ⅲでの学習内容の確認) 復習：演習・技術チェックの振り返り			
テキスト	看護技術論Ⅰ～Ⅲで用いたもの			
参考書・参考資料等	適宜、提示する。			
学生に対する評価	各単元での課題と技術チェック (80%)、学習態度 (20%) により総合的に評価する。			

授業 科目名	日常生活調整方法論 (Methods in Health Management)	選択：看2年	1 単位 15 時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子 [看護師] (研究室：教育棟B307) 今井宏美 [看護師]、渡辺健太郎 [看護 師]、小布施未桂 [看護師]、 仁井田友紀 [看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識、 IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の健康状態と日常生活との関連について、食と排泄、運動と休息のバランスの観点から理解する。</li> <li>自身の自覚している身体不調の改善に向け、現在の身体状態を評価するためのモニタリング指標、生活改善の具体的な計画を定める。</li> <li>計画に沿って、日常生活調整を行い、その調整の成果を、モニタリング指標を元に評価する。</li> </ul>				
〔授業の概要〕				
この授業では、東洋医学において「未病」とされる身体不調を、日常生活の調整を通して改善するための基礎的知識と具体的な実践方法について学修する。ここでの日常生活の調整とは、食と排泄、運動と休息の調整を主とする。看護技術論 I で学んだ内容をさらに深め、それぞれの具体的な調整方法やその科学的根拠について学修する。さらに、学んだことを用いて、自己の生活の改善計画の立案と実施に取り組み、その成果について評価する。				
キーワード：日常生活調整 セルフケア 食と排泄 運動と休息				
〔授業計画〕				
回	数	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/12	ガイダンス 日常生活を調整するとは	授業概要について 身体不調と日常生活調整との関連について、事例を元に理解する	河部
第2回	4/19	様々な身体不調と生活調整	青年期によくある身体不調として、月経不順、便秘、貧血、冷え等を取り上げ、その機序や改善のための生活調整について理解する	河部
第3回	4/26	運動と休息のバランスをととのえる	生活調整の視点として、運動と休息のバランスをととのえるために必要な知識と、具体的な生活調整の方法について理解する	河部
第4回	5/10	食と排泄のバランスをととのえる	生活調整の視点として、食と排泄のバランスをととのえるために必要な知識と、具体的な生活調整の方法について理解する	河部
第5回	5/17	各自の日常生活調整計画の立案	各自が、自己の身体不調を改善するための生活調整の方法について、具体的に計画立案する	全員
第6・7回	5/24, 5/31	日常生活調整の取り組み状況報告	立案した計画に沿って取り組み、その取り組み状況を報告する。	全員
第8回	6/7	日常生活調整の取り組み結果	これまでの取り組み状況と成果について報告する。	全員
履修条件	看護技術論 I を履修していることが望ましい この授業を通して改善したい身体不調のある学生の受講を原則とする			
予習・復習	予習：第5回以降の取り組みに関連する知識の学習 復習：授業のレジュメの見直し			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	随時紹介する			
学生に対する評価	各自の取り組み状況とレポート (90%)、学習態度 (10%) により総合評価する			

授業科目名	看護学入門実習 Hands-on Learning for Nursing Freshmen	履修年次:	2単位 90時間	担当教員名:科目責任者 春日広美[看護師](教育棟B312), 石井邦子[助産師], 浅井美千代[看護師], 市原真穂[看護師], 河部房子[看護師], 木内千晶[看護師], 小宮浩美[看護師], 佐藤紀子[保健師]
		必修:看1年	コード: NSB110	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I. 倫理観とプロフェッショナリズム、II. コミュニケーション能力、VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 看護を学ぶ初期の段階で看護の対象となる様々な年代や健康レベルの人々を理解するとともに、多様な場で提供される看護を理解することにより、対象者(患者・生活者)の視点から看護の意義・役割について考えられる基盤づくりをする。そのことをとおして看護学への関心を高め、これから本格的に開始される学習への動機付けとする。				
〔授業の概要〕 病院・診療所・高齢者ケア施設・助産所・市町村保健センターなど、健康レベル・ライフサイクル・生活の場などを考慮して組み合わせられた3か所での施設学習、患者体験者との交流、乳幼児または高齢者のいる家庭への訪問を実施する。これらの体験を踏まえ、また、看護師、保健師、助産師の実務経験を基盤にした担当教員の指導のもと、看護の対象の多様性、人々の生活と健康の関連、看護の意義・役割について考える。				
キーワード: 看護学、対象、生活、健康				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	5/30 II	学習目的・目標および学習内容	実習目的・目標説明および学習内容について	石井邦子 浅井美千代 市原真穂 春日広美 河部房子 木内千晶 小宮浩美 佐藤紀子
第2回	6/6	体験学習	①体験ごとのオリエンテーションおよび事前学習(6/6、6/13、6/20のI・II) ②施設学習(3日):病院1日、診療所1日、市町村保健センター・介護保険施設・助産施設・精神科デイケア施設のいずれか1日 ③患者体験をもつ人や家族との交流(1日) *②③は、グループごとに6/26、7/3、7/10、7/17にローテーションで実施 ④家庭訪問(1回):乳幼児のいる家庭もしくは高齢者のいる家庭のどちらかを1回訪問 ⑤体験学習の整理、レポート作成 ⑥各自の体験・学びを発表し合い、到達目標に向けて意見交換 *⑤⑥は、6/27、7/4、7/11、7/18のI・IIに実施 ⑦実習のまとめ	
第10回	7/18			
履修条件		看護学入門を履修済みのこと		
予習・復習		各担当教員の指示による		
テキスト		特定のものなし		
参考書・参考資料等		その都度配布する		
学生に対する評価		学習態度(30%)、課題別レポート(50%)、最終レポート(20%)		

授業科目名	基礎看護学実習 Fundamental Nursing Practicum	履修年次 必修：看2年	単位数： 2単位 90時間	担当教員名： 科目責任者 河部房子 [看護師] (研究室：教育棟B307) 今井宏美 [看護師]、西村宣子 [看護師]、 富樫恵美子 [看護師]、渡辺健太郎 [看護師]、 小布施未桂 [看護師]、仁井田友紀 [看護師]
			コード：NSB111	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 実習目的：受け持ち患者との関わりを通して、患者の療養生活と療養生活における看護の必要性を理解し、患者の個性に合わせた日常生活援助を実施・評価する。 ①受け持ち患者および家族を看護の対象として、尊重しつつ関わることができる。 ②受け持ち患者の全体像を描き、看護援助の必要性を把握することができる。 ③受け持ち患者の看護援助の必要性と、これまでに学習した援助技術の目的、原理原則をふまえ、患者に合わせた援助技術を考え、可能な範囲で実施・評価できる。 ④看護専門職を目指す学生としての責任を自覚し、看護学生として適切な態度や行動をとることができる				
〔授業の概要〕 療養中の患者を取り巻く環境や療養生活、患者に必要な看護援助を決定するプロセスを理解し、患者理解を深めながら、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養うことを目的とする。また既習技術を用いて必要な情報を収集して患者像を描き、生活援助技術を患者の条件に合わせて応用して実施、評価する。 実習施設は千葉市立海浜病院、東京歯科大学市川総合病院の予定である。詳細な日程や学習の進め方については、別途指示する。				
〔授業計画〕 キーワード：対象理解、看護援助、援助的人間関係、看護実践、評価				
回数	テーマ	内 容		担当者
	事前オリエンテーション	実習の目的・目標、実習方法等について		河部房子他
第1回	臨地実習 実習施設オリエンテーション	病院の概要や組織、看護と他部門の関係を知る 病棟の構造や機能、患者の特徴や看護体制を知る		河部房子他
第2 ～4回	看護援助の実際を知る(学内実習)	模擬患者への看護過程展開を目指し、患者情報から患者像を描き、必要な看護援助と具体的な方法について検討する。 模擬患者に対する看護実践を行い、実践を振り返り評価する。看護実践における自己の課題を明確にする。		全教員
第5 ～9回	受け持ち患者の理解および看護援助の実施(臨地実習)	学内実習の学習を元に、受け持ち患者への看護過程を展開する。 描いた患者像を元に、実施する援助技術の原理原則をふまえつつ、患者に適した援助方法を考え、実施・評価する。 評価をもとに、援助方法を修正し、実施につなげるプロセスを学ぶ。		全教員
第10回	学びの共有/評価	学びの発表・討議、総合評価		全教員
履修条件	看護学入門、精神看護学概論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ、看護学入門実習は単位取得済、看護技術論Ⅲは単位取得見込み			
予習・復習	実習担当教員の指示による			
テキスト	特に指定しない			
参考書・参考資料等	看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したもの、必要に応じて適宜			
学生に対する評価	実習記録を含めた実習内容(90%)、実習態度等(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	臨床看護学概論 (Introduction to Clinical Nursing)	履修年次: 必修：看2年 編3年	1単位 15時間 コード：NSP201	担当教員名: 科目責任者 浅井美千代[看護師] (研究室：教育棟B319) 三枝香代子[看護師]・田口智恵美[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、II コミュニケーション能力、III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 成人期にある人々の特徴についての理解を基盤に、様々な健康レベルにある成人患者に対する看護のあり方について学ぶ。 到達目標：①成人期にある人々の発達上の特徴および特徴的な健康問題について理解できる。 ②様々な健康レベルにある成人患者の特徴とその特徴に応じた看護のあり方を理解できる。				
〔授業の概要〕 ①-1 ライフサイクルにおける成人期の位置づけと発達上の特徴（身体的・心理的社会的特徴）、成人保健の動向および成人期に特徴的な健康問題について教授する。 ①-2 成人期にある人々の特徴を理解するための諸理論・概念について教授する。 ② 様々な健康レベルにある成人患者に対する看護のあり方について、看護師の実務経験に基づき教授する。 キーワード：成人期 急性期、回復期、慢性期、終末期				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2IV	成人を理解するための理論・概念1	成人の適応を促すための理論・概念	田口智恵美
第2回	10/2V	成人を理解するための理論・概念2	成人の発達を促進するための理論・概念①	三枝香代子
第3回	10/16IV	成人を理解するための理論・概念3	成人の発達を促進するための理論・概念② 成人と関係を結ぶための理論・概念	浅井美千代
第4回	10/23IV	成人期にある人々の特徴	成人期（青年期・壮年期・中年期・向老期）の特徴 成人保健の動向および成人期に特徴的な健康問題	浅井美千代
第5回	10/30IV	急性期にある成人患者の看護	急性期とは 急性期にある成人患者および家族の特徴 急性期看護とは	三枝香代子
第6回	11/6IV	回復期・慢性期にある成人患者の看護	回復期・慢性期とは 回復期・慢性期にある成人患者および家族の特徴 回復期看護および慢性期看護とは	浅井美千代
第7回	11/13IV	終末期にある成人患者の看護	終末期とは 終末期にある成人患者および家族の特徴 終末期看護とは	浅井美千代
第8回	11/20IV	まとめ	授業全体のまとめ	浅井美千代
履修条件		特になし		
予習・復習		テキストの該当ページを掲示する。テキストを読んで授業に臨むこと。 復習は、授業資料の見直しを推奨。		
テキスト		成人看護学概論，南江堂		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験(90%)と学習態度(10%)により評価する。		

授業科目名	臨床看護学方法論Ⅰ (急性期・がん) (Methods I in Clinical Nursing)	履修年次 必修：看3年	2単位 30時間 コード：NSP202	担当教員名： 科目責任者 三枝香代子〔看護師〕 (研究室 教育棟B318) 田口智恵美〔看護師〕・大内美穂子〔看護師〕 浅井美千代〔看護師〕・大塚 知子〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 疾患や障害により治療を必要とする患者とその家族への基本的看護援助方法を理解できる。 ①急性状況下にある患者とその家族への看護援助方法を理解できる。 ②手術を受ける患者とその家族に対する看護援助方法を理解できる。 ③がん治療を受ける患者とその家族への看護援助方法が理解できる。				
〔授業の概要〕 本授業は、講義形式により、急性状況下にある患者とその家族に対する基本的な看護援助方法論およびがん罹患した患者と家族に対する基本的な看護援助方法論について学習する。まず、手術を受ける患者とその家族、救急・集中治療下にある患者とその家族への基本的な看護援助方法論について教授する。次に、今日のがん医療において求められる看護の役割と機能、がん罹患及び治療に伴う苦痛症状とそのマネジメント方法、がん治療を受ける患者とその家族への看護援助方法について教授する。				
キーワード：術前看護、術中看護、術後看護、クリティカルケア看護、救急外来、がん看護				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	4/10Ⅱ水	周手術期看護	術前期における看護	大内美穂子
第2回	4/17Ⅱ水		術中期における看護	大内美穂子
第3回	4/24Ⅱ水		術後期における看護1	田口智恵美
第4回	5/1Ⅱ水		術後期における看護2	三枝香代子
第5回	5/8Ⅱ水	手術の特徴と看護	運動器疾患手術と看護	三枝香代子
第6回	5/15Ⅱ水		開頭術と看護	三枝香代子
第7回	6/13Ⅲ木		開胸術と看護	田口智恵美
第8回	6/13Ⅳ木	救急・集中治療における看護	鏡視下手術と看護(胸腔鏡・腹腔鏡)	大内美穂子
第9回	6/20Ⅲ木		救急搬送患者に対する看護	三枝香代子
第10回	6/27Ⅲ木		集中治療下(ICU)にある患者に対する看護1	田口智恵美
第11回	6/27Ⅳ木	がんの特徴と看護	集中治療下(ICU)にある患者に対する看護2	田口智恵美
第12回	7/4Ⅲ木		がん医療における看護の役割	浅井美千代
第13回	7/4Ⅳ木		がん放射線療法を受ける患者への看護	特別講義講師 〔看護師〕
第14回	7/11Ⅲ木		がん薬物療法を受ける患者への看護1	大内美穂子
第15回	7/11Ⅳ木		がん薬物療法を受ける患者への看護2	大塚 知子
履修条件	臨床看護学概論の単位を修得していることが望ましい。			
予習・復習	テキストの該当ページを掲示する。テキストを読んで授業に臨むこと。 復習は、授業資料の見直しを推奨。			
テキスト	成人看護学 急性期看護Ⅰ－概論・周手術期看護－，南江堂 成人看護学 急性期看護Ⅱ－救急看護－，南江堂/成人看護学 成人看護技術，南江堂 系統看護学講座－別巻 がん看護学，医学書院			
参考書・参考資料等	授業中の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験90%、学習態度10%により評価する。			